

中国産業用ロボット市場調査総覧 ダイジェスト (2023年版)

2023年

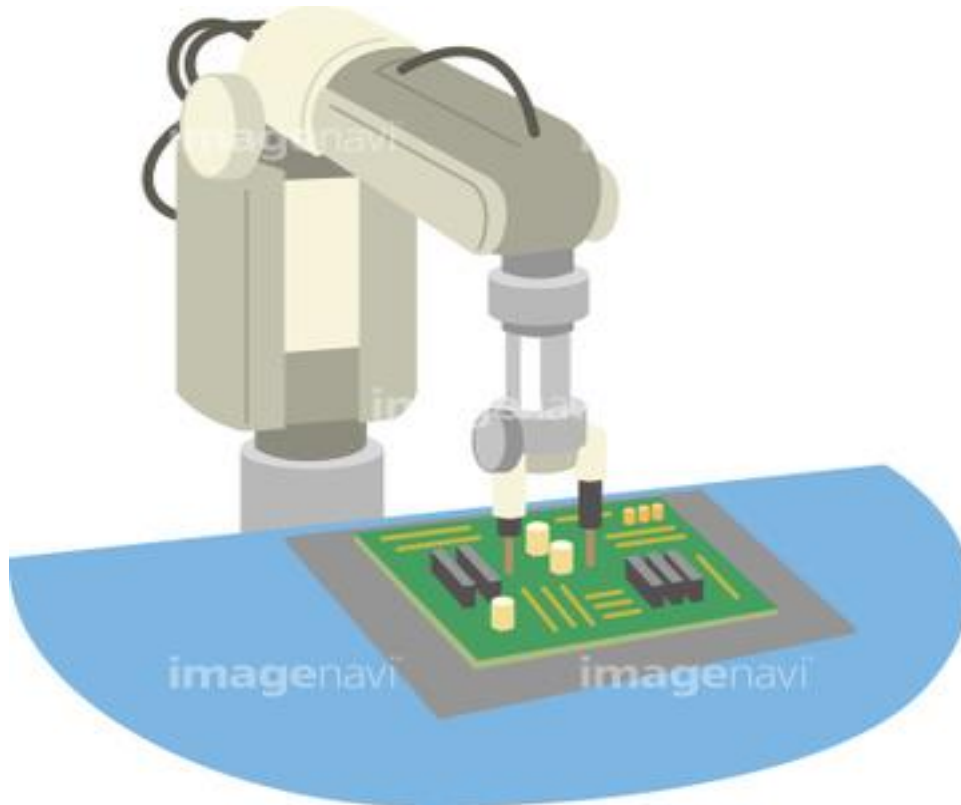
中国産業用ロボット市場調査総覧

—中国ロボット産業の発展、国産化の最新動向、日本企業の市場参入チャンスの徹底分析—

工場網信息科技有限公司（上海）有限公司

2023-06

- 産業用ロボットとは、実際の製造現場で、人の代わりとして用いられるロボットを指します。
- 産業用ロボットは多目的な用途に適応するためのマニピュレータ（機械の腕）と、プログラムで制御する複数の軸（人間でいう関節）で形成され、耐久性、正確性に優れています。



- ◆本レポートでは、・中国ロボット市場の状況 ・部品メーカー、SI、ロボットメーカー、導入済のエンドユーザー ・市政府の補助金や優遇政策など大量の市場構成情報を整理しました。

2018版

- ・ システムインテグレーター200社の企業レポートを掲載
- ・ 中国ロボットシステムインテグレータ市場の最新動向及びリストアップした約500社のシステムインテグレータ企業の中から比較的实力の強い200社を厳選して、専門レポートを作成しました。

2019版

- ・ コア部品メーカー38社にフォーカス
- ・ 製造現場でのロボット導入ニーズの高まりから産業ロボットを構成するコア部品（減速機、サーボシステム、コントローラー）に焦点を当てました。

2020版

- ・ ロボットメーカー27社を徹底紹介
- ・ 5G普及に伴う3C分野回復など明るい予測から産業用ロボットメーカーの最新状況を徹底的に調査しました。

2021版

- ・ ロボット導入ユーザー20社からのフィードバックを中心にご紹介
- ・ 2021版はロボットを導入したエンドユーザーからのフィードバックを元にエンドユーザー、ロボットメーカー、部品メーカーの懸念される問題点、課題を解明しております。

2023版

- ・ 中国産業用ロボット市場の最新発展状況及びその産業チェーン品目別の国産化の最新進捗状況に注目し、**市場規模、産業現状、市場競争状況、トレンド予測などについて詳しく分析し、産業用ロボットに関わる主要製品の市場参入機会分析、参入戦略及び市場開拓戦略等の角度から研究分析、整理しました。**



中国の産業用ロボット市場規模と成長動向、主要な応用分野と需要促進要因を紐解く。

産業用ロボットのコア部品（減速機、コントローラー、サーボシステム）及び他の主要部品（ロボットビジョン、センサー、ケーブル・コネクタ）、ロボット本体、システムインテグレーションの国産化の進捗現状を詳細に把握。

産業用ロボットに関わる主要製品の市場チャンスや、日系企業との生産技術連携ニーズ等の分析を総括。

ターゲット市場セグメントへの参入戦略や、市場開拓戦略等を探索。

1.概要

1.1中国産業用ロボット産業の発展経緯

1. 2017年以降、中国産業用ロボットは急成長期を迎えた

1.1.2中国産業用ロボットの世界市場シェアが持続的に増加している

1.1.3中国のロボット政策を相次いで打ち出され、産業の発展を推進する

1.1.4中国の「「ロボット+」応用行動実施案」

1.2中国産業用ロボット産業チェーン構造

1.2.1中国はロボットを産業用、サービス用、特殊用の3種類に大別している

1.2.2産業用ロボットの定義と種類

1.2.3産業用ロボの各種製品パラメータ概観

1.2.4産業用ロボットの応用シーン

1.2.5中国のロボット産業チェーンの全体像

1.2.6 2022年の中国のロボット市場の構図：産業用ロボットの割合は50%

1.2.7中国産業用ロボットの主要部品のコスト構造

1.3中国2020-2029年中国産業用ロボット産業チェーン予測データ総覧

1.3.1中国の産業用ロボットは長期的に好調を維持している

1.3.2 2017-2022年の中国産業用ロボット生産量の増加

1.3.3 2023-2029年の中国産業用ロボット生産量の予測

1.4中国産業用ロボット国産化の発展経緯と現状

1.4.1中国産業用ロボット市場は外資系4大ブランドに独占される

1.4.2中国産業用ロボットの国産化傾向は顕著である

1.4.3中国のローカル産業用ロボットが徐々にトップ企業に進出

1.4.4中国産業用ロボットはクリーンと塗装分野の国産化率が高い

1.4.5中国国産産業用ロボットが一般製造業に占める割合が大きくなる

1.4.6中国のロボットが輸入品の国産化を促進している

2.中国産業用ロボット市場の需要現状と展望

2.1中国産業用ロボットの主な川下応用分野と需要促進要因

- 2.1.1短中長期的な複数要因の相互作用により、産業用ロボットは高成長を維持
- 2.1.2中国の15～64歳人口の割合は2010年以後減少すると見込まれる
- 2.1.3中国の一定規模以上の企業の雇用者の平均賃金は年々上昇
- 2.1.4中国の製造業の持続的な成長
- 2.1.5中国産業用ロボットの応用シーンは従来分野から新興分野への拡大を加速
- 2.1.6産業用ロボットの非自動車分野の応用比率は2022年に70%を超えている
- 2.1.7 2022年の中国産業用ロボット川下産業出荷台数の成長率
- 2.1.8新エネルギー車及び太陽光発電産業が中国の産業用ロボット成長の主な牽引力となる

2.2中国の産業用ロボット市場規模と成長動向

- 2.2.1 2017-2024年の世界のロボット市場規模
- 2.2.2 2017-2024年の中国ロボット市場規模
- 2.2.3 2017-2024年の中国産業用ロボット市場規模

2.3中国産業用ロボットの主要製造企業及び生産能力増強について

- 2.3.1南京埃斯頓自動化股份有限公司
 - 2.3.1.1主な事業状況
 - 2.3.1.2企業の経営状況分析
 - 2.3.1.3企業今後の協力機会
- 2.3.2深セン市匯川技術股份有限公司
- 2.3.3埃夫特智能裝備股份有限公司
- 2.3.4瀋陽新松機器人自動化股份有限公司
- 2.3.5武漢華中数控股份有限公司
- 2.3.6上海新時達電氣股份有限公司
- 2.3.7広東拓斯達科技有限公司
- 2.3.8綠的諧波伝動科技股份有限公司
- 2.3.9浙江双環伝動機械股份有限公司
- 2.3.10寧波中大力徳智能伝動股份有限公司
- 2.3.11禾川科技股份有限公司
- 2.3.12奥普特科技股份有限公司

2.4「スマート製造2025」を見据えた中国産業用ロボットの見通し

2.4.1中国産業ロボット密度は世界トップ水準

2.4.2中国産業用ロボット密度は年々増加傾向

2.5中国産業用ロボットの国産化動向

2.5.1中国産業用ロボット国産化率予測

2.5.2減速機がカギとなる中国産業用ロボット部品国産化の方向

3.中国産業用ロボット産業チェーンにおける市場チャンス

3.1中国産業用ロボット産業チェーン分析

3.1.1川上：産業用ロボットコア部品

3.1.1.1高い部品コスト割合を占める減速機・サーボシステム

3.2.1川中：産業用ロボット本体製造

3.2.1.1中国産業用ロボット応用は運搬・溶接が中心

3.3.1 川下：産業用ロボットのシステムインテグレーション

3.3.1.1中国産業用ロボットの異なる産業における応用成熟度

3.3.1.2中国産業用ロボットの自動車製造工程における応用

3.3.1.3中国産業用ロボットの3Cエレクトロニクス工程における応用

3.3.1.4中国産業用ロボットのリチウム電池工程における応用

3.2中国産業用ロボットに関わる主要製品の市場参入機会分析

3.2.1減速機

3.2.1.1産業用ロボットの減速機はRV減速機と波動歯車減速機が主

3.2.1.2 2014-2022年中国産業用ロボットRV減速機の市場規模

3.2.1.3中国産業用ロボットRV減速機の市場競争状況

3.2.1.4 2017-2025年中国産業用ロボット波動歯車減速機の市場規模

3.2.1.5中国産業用ロボット波動歯車減速機の市場競争状況

3.2.2サーボシステム

3.2.2.1 2015-2022年の中国産業用ロボットサーボモーターの市場規模

3.2.2.2中国産業用ロボットサーボモーターの市場競争状況

3.2.3コントローラー

3.2.3.1 2014-2022年中国産業用ロボットコントローラーの市場規模

3.2.3.2中国産業用ロボットコントローラーの市場競争状況

3.2.4マシンビジョンとセンサー

3.2.4.1ロボットに搭載されるセンサー

3.2.4.2 2015-2025年中国マシンビジョンの市場規模と予測

3.2.4.3中国マシンビジョンの市場競争状況

3.2.5ケーブルとコネクタ

3.2.5.1 2015-2022年中国コネクタの市場規模

3.2.5.2 2021年世界コネクタ地域別割合

3.2.5.3 2021年中国コネクタ応用分野

3.2.5.4中国産業用ロボット用コネクタの市場競争状況

3.2.5.5産業制御分野の製品別コネクタ使用数

3.2.5.6産業用制御用コネクタへの高い性能要件

3.2.5.7産業用制御分野のコネクタ需要タイプ

3.2.5.8 2015-2022年中国ロボットケーブルの市場規模

3.2.5.9 2022年中国産業用ロボットケーブルの市場構造

3.2.5.10国内外の主要産業用ロボットケーブルメーカー

3.2.6ロボット本体

3.2.6.1中国産業用ロボットの 카테고리構成

3.2.6.2 2017-2023年中国6軸ロボットの販売台数

3.2.6.3 2017-2023年中国大型6軸(負荷>20kg)ロボットの販売台数

3.2.6.4 2017-2023年中国小型6軸(20kg以下)ロボットの販売台数

3.2.6.5 2017-2023年中国協働ロボットの販売台数

3.2.6.6 2017-2023年中国SCARAロボットの販売台数

3.2.6.7 2017-2023年中国DELTAロボットの販売台数

3.2.6.8中国大型6軸(>20kg)ロボットの市場競争状況

3.2.6.9中国小型6軸(20kg以下)ロボットの市場競争状況

3.2.6.10中国SCARAロボットの市場競争状況

- 3.2.6.11 中国協働ロボットの市場競争状況
- 3.2.6.11 中国DELTAロボットの市場競争状況

3.2.7 システムインテグレーション

- 3.2.7.1 2016-2022年産業用ロボットシステムインテグレーションの市場規模
- 3.2.7.2 2022年中国産業用ロボットシステムインテグレーションの市場構造
- 3.2.7.3 主要産業のシステムインテグレーションにおける国内外の競争状況
- 3.2.7.4 主要産業用ロボットのインテグレーターリスト

4. 日本企業の中国産業用ロボット市場参入・開拓戦略

4.1 市場参入戦略

4.1.1 日本企業の中国産業用ロボット市場参入SWOT分析

4.1.1.1 日本企業の中国産業用ロボット市場参入SWOT分析

4.1.2 中国産業用ロボット産業チェーンへの参入可能性と見極め

- 4.1.2.1 産業用ロボットのコア技術及び今後の方向性
- 4.1.2.2 産業用ロボットのスマート化進化
- 4.1.2.3 産業用ロボットの応用シーンの浸透と拡大
- 4.1.2.4 産業用ロボットのプラットフォーム化傾向
- 4.1.2.5 中国産業用ロボメーカーのコア部品の内製化動向
- 4.1.2.6 日本企業の市場機会は川上の部品分野にある
- 4.1.2.7 中国産業用ロボットの生産・販売サイクルとサービスプロセス

4.1.3 ターゲットとなるセグメント市場の選択

- 4.1.3.1 部品：サーボ+制御、本体：協働ロボット
- 4.1.3.2 システムインテグレーションとマシンビジョン・センサー
- 4.1.3.3 今後の人気応用分野

4.1.4 ターゲットとなるセグメント市場への参入戦略分析

- 4.1.4.1 産業用ロボット部品はスマート化コア製品に注目
- 4.1.4.2 産業用ロボット本体には市場化された新興ロボットカテゴリにレイアウト

4.2市場開拓戦略

4.2.1製品別市場拡大戦略

4.2.1.1ロボットセンサー市場戦略:ナビゲーションシステム、マシンビジョン、ヒューマンコンピュータインタラクションに注目

4.2.1.2ロボットセンサ市場の発展方向:イノベーション技術と応用

4.2.1.3中国レーザーレーダーの市場規模予測

4.2.1.4 2022年中国レーザーレーダーの川下応用比率

4.2.1.5 2022年中国ミリ波レーダー市場規模

4.2.1.6 2022年中国ミリ波レーザーレーダーの川下応用比率

4.2.1.7減速機

4.2.1.8中国波動歯車減速機の国産化を加速する

4.2.1.9中国RV減速機メーカーと国外の差が徐々に縮小する

4.2.1.10中国波動歯車減速機、RV減速機の生産能力

4.2.1.11波動歯車減速機の障壁となったコア技術:材料、設計、工程、組立研究開発

4.2.1.12サーボシステム

4.2.1.13 2022年中国サーボモーターの川下応用比率

4.2.1.14コントローラー

4.2.1.15 PLC国産化率は工業制御製品の中で低い

4.2.1.16小・中・大型PLCの市場規模

4.2.1.17中大型PLCの市場競争状況と国産化率動向

4.2.1.18産業用ロボット本体

4.2.2主要地域における産業用ロボット投資・支援策

4.2.2.1中国主要地域における産業用ロボット産業の発展と財政補助政策

4.2.3産業用ロボット関連認証

4.2.3.1中国ロボットCR認証マーク

4.2.3.2中国産業用ロボットCR認証マークの関連基準

5.パートナー候補企業の推薦

5.1中国ロボット産業の各分野における主要潜在パートナー

6.付録

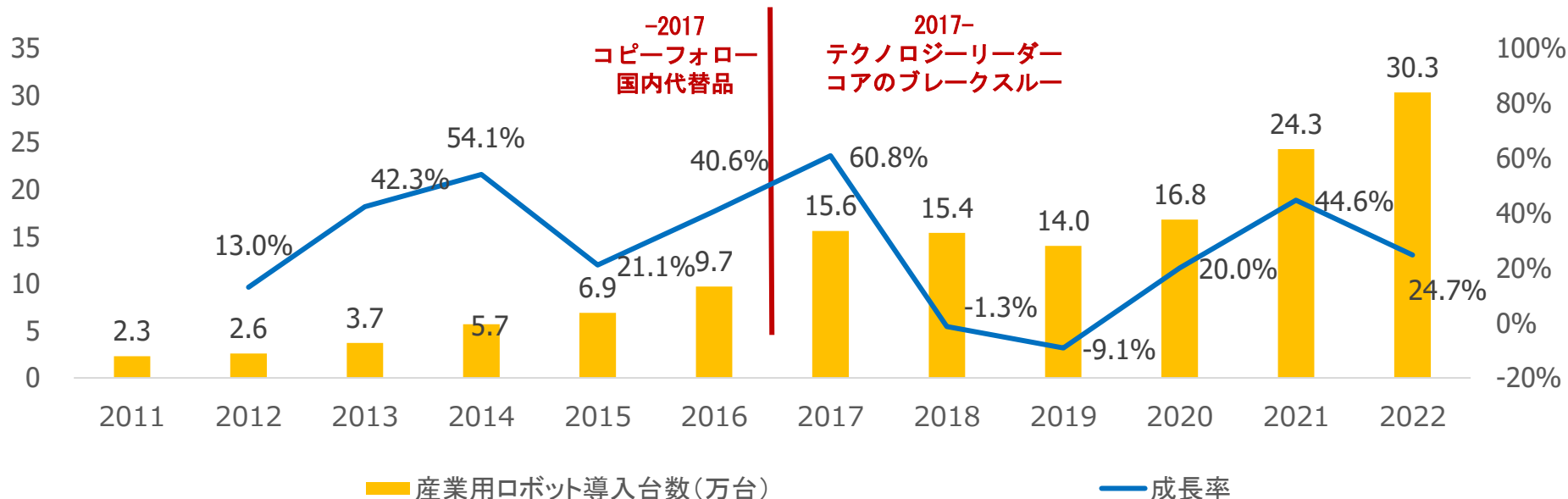
6.1中国のロボット企業数

6.2中国ロボット企業の地域分布

2017年以降の中国産業用ロボットは急成長する

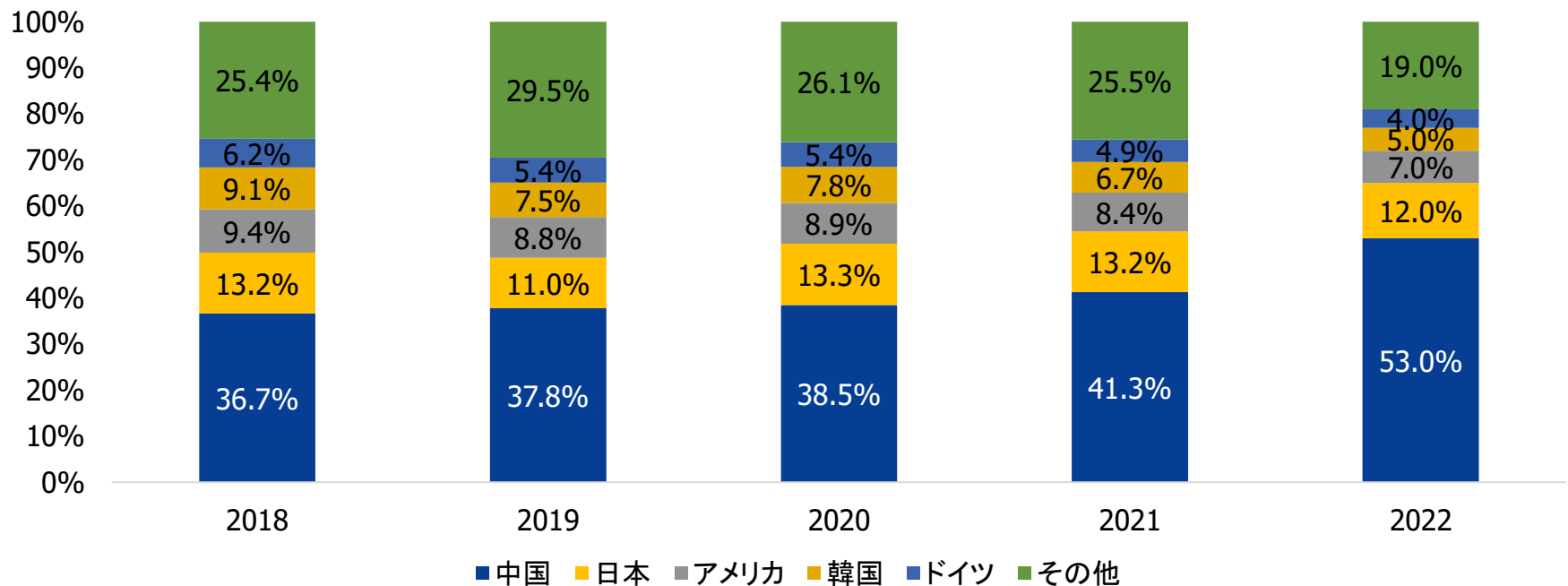
- IFRの統計によると、2017年～2022年の中国産業用ロボットの出荷台数は15.6万台から30.3万台に増加、市場規模は87億米ドル、年平均成長率は13.6%となった。
- 2017年以前の中国産業用ロボット産業は、主に国産品への置き換え段階であった。中国のロボット企業は主に4大ブランドであるFanuc、ABB、安川電機、KUKAの製品を低コストで模倣して置き換えていた。IFRの統計によると、中国における産業用ロボットの販売台数は2001年から2022年の間に700台から30.3万台（87億米ドル）へ、年平均成長率は33.5%となった。2017年には販売台数が初めて10万台を突破し、産業用ロボット業界の転機となった。2017年以降、AIディープラーニング、3Dビジョン、力制御などの新技術の変化と相まって、中国産業用ロボット産業は国産品の置き換えから市場リーダーシップへ移行、産業用ロボットのコア部品において中国ローカル企業も 高い市場シェアを獲得し始めた。

図： 2011～2022年中国産業用ロボットの導入台数（万台）



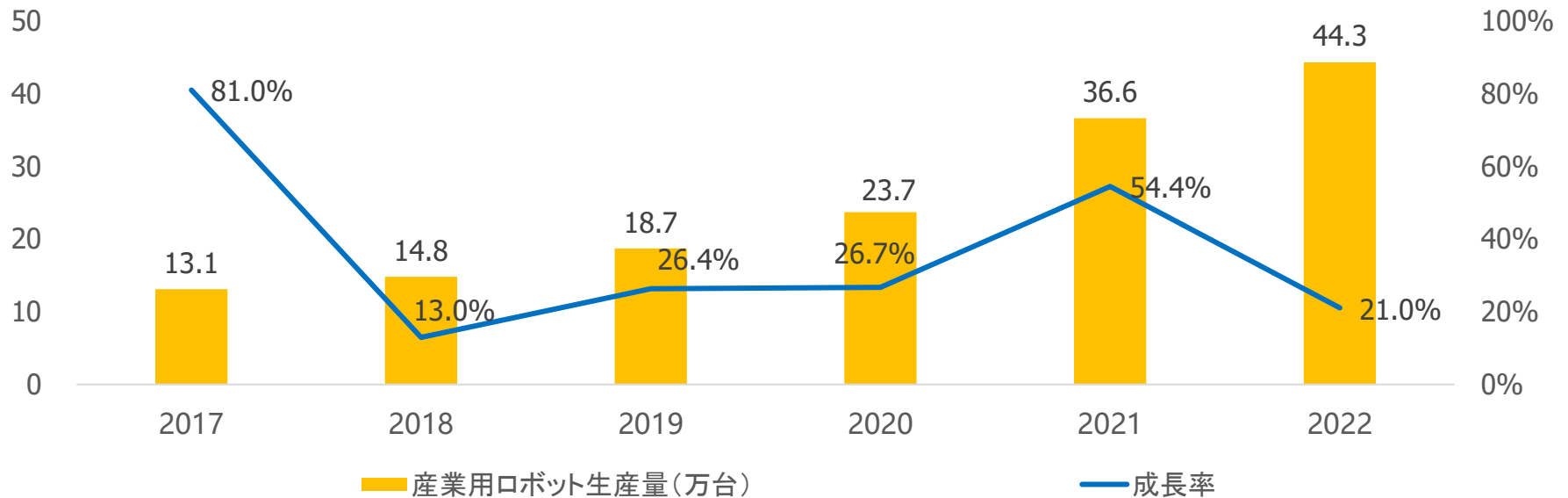
- 数量ベースでは、中国産業用ロボットは、2022年までに世界市場シェアの53%を占める。

図：2018年～2022年中国産業用ロボットは世界市場シェアに占める割合が徐々に拡大



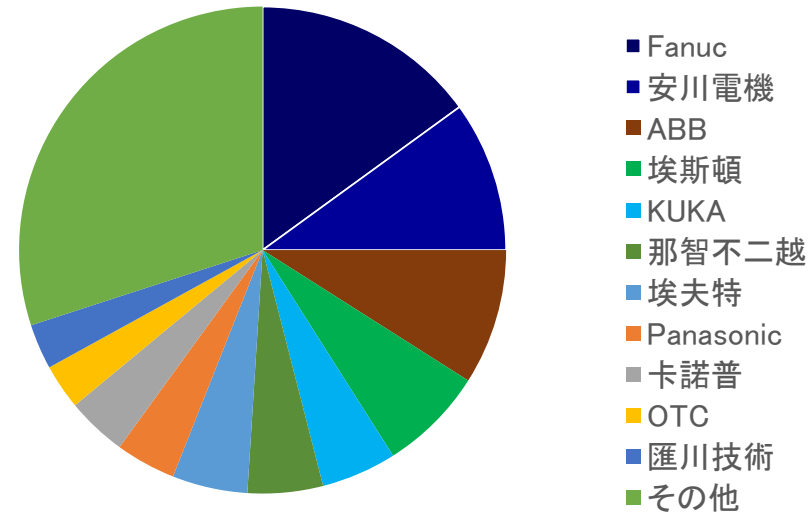
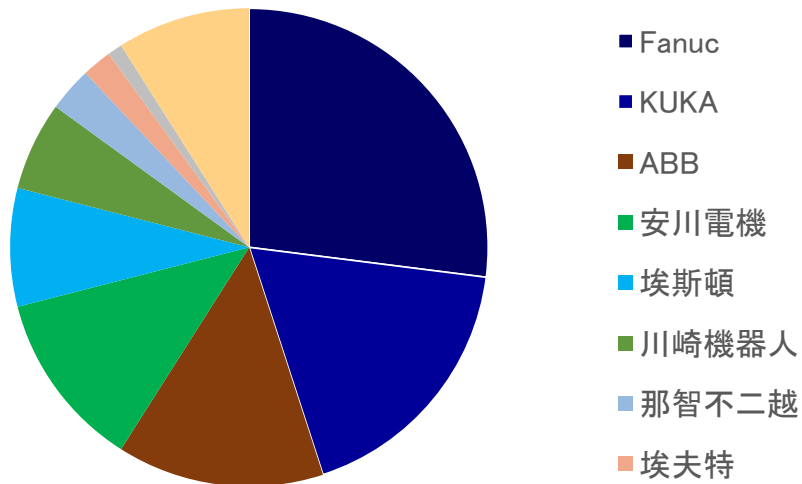
- 2022年、中国の産業用ロボット生産台数は44.3万に達し、依然として高成長を維持している。
- 中国新エネルギー自動車や太陽光発電産業の急速な発展に伴い、中国産業用ロボットの川下の需要が拡大し続け、産業用ロボット技術の進歩とともに、中国産業用ロボット製品は今後も急速な成長傾向を維持し、2029年には中国の産業用ロボット生産量は100万台／セット以上に達すると予測されている。

図：2017年～2022年の中国産業用ロボット生産量(万台／セット)

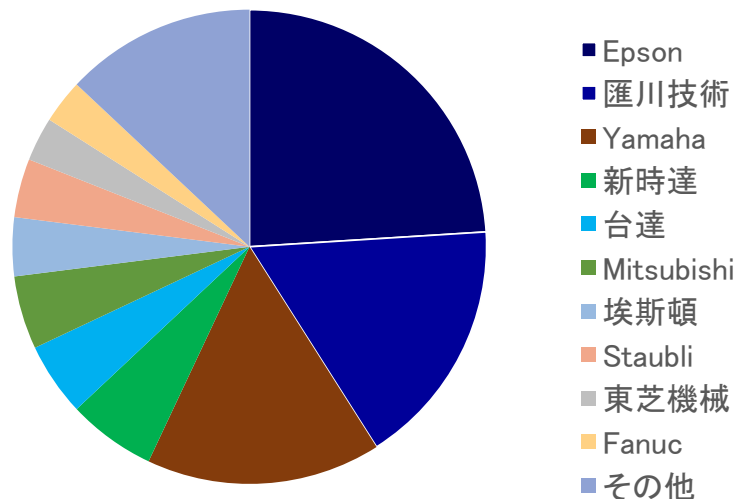


タイプ別産業用ロボットの市場競争状況(導入数量ベース) **FNA** FACTORY NETWORK ASIA GROUP

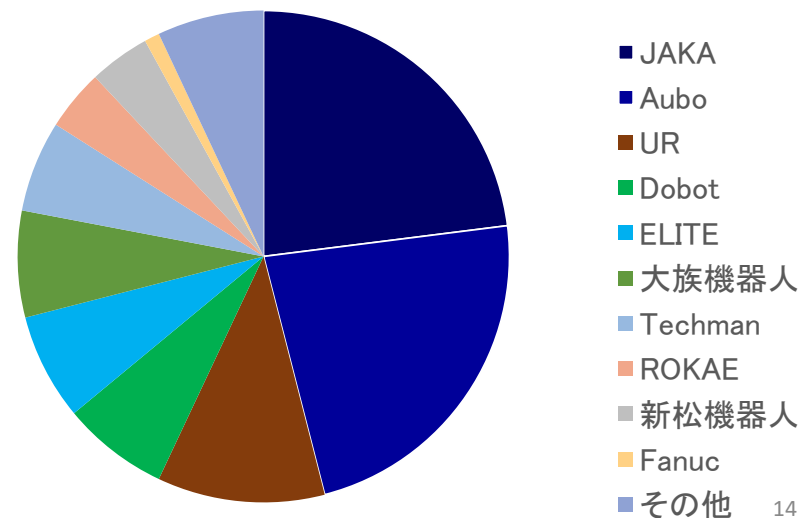
2022年中国大型6軸(>20kg)ロボットメーカー別市場シェア 2022年中国小型6軸(20kg以下)ロボットメーカー別市場シェア



2022年中国SCARAロボットメーカー別市場シェア

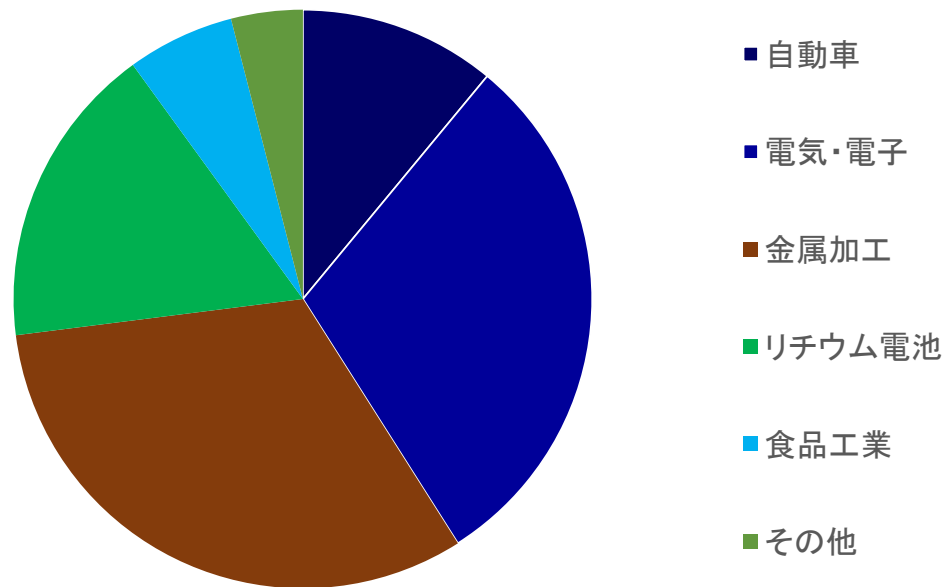


2022年中国協働ロボットメーカー別市場シェア



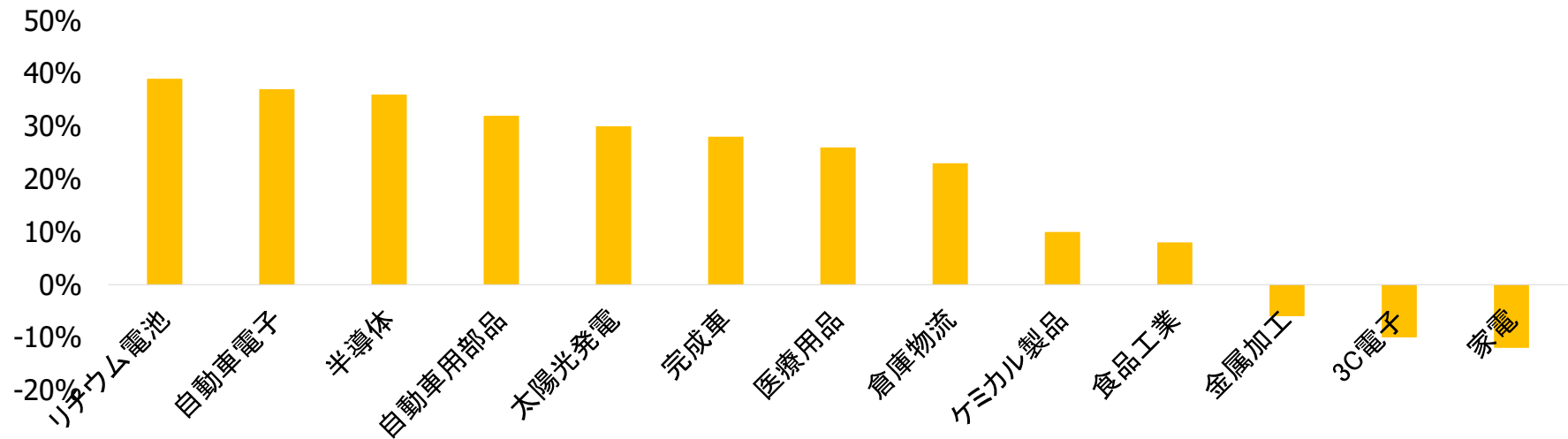
- 中国産業用ロボットが始まった当初、大量生産される自動車産業に向けられていた。自動車組立ラインはロボットに高い精度と安定性及び位置繰返し精度が要求される。2022年には中国の非自動車向けが全体の70%以上を占め、他の産業分野にも浸透し続けている。自動車分野は4強メーカーに独占されているが、エレクトロニクス、リチウム電池、太陽光発電などの新興産業では中国国内メーカーの競争力が強く、中国国内シェアは2015年の18%から2022年には36%に上昇。

図：2022年多くの産業分野に応用される中国産業用ロボット



- 2022年中国産業用ロボット川下の応用は、主に新エネルギー自動車、リチウム電池、太陽光発電、医療産業が市場を牽引し、3C電子市場が低迷に陥り、その他の一般産業はマクロ経済ショックの影響を受け、全体的景気回復が予想に及ばない。

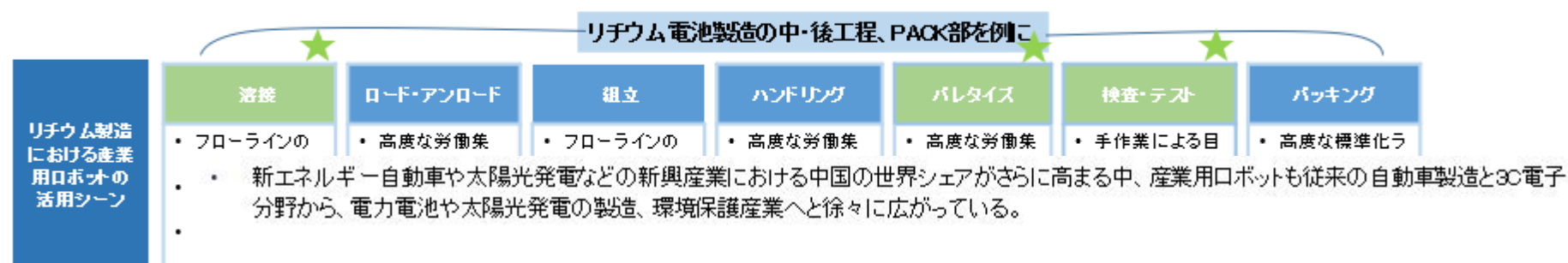
図：2022年中国産業用ロボット応用分野別出荷台数伸び率



3.3.1.4 中国産業用ロボットのリチウム電池工程における応用

- 近年、新エネルギー車の発展に伴い、リチウム電池の市場規模も拡大し、需要も急増しており、リチウム電池生産における産業用ロボットの応用を深めることが急務となっている。リチウム電池産業は、中国国産ロボットが相対的に優位性がある応用分野となり、システムインテグレーターの努力に値すると考えられる。産業用ロボットは、リチウムイオン電池の生産に多く使用され、大きな需要がある。主にモジュール組立やPACK組立など、溶接、ロード・アンロード、組立、ハンドリング、パレタイズ、検査・テスト、パッキングなど、中・後工程の生産シーンで使用されている。

図：中国産業用ロボットのリチウム電池生産における応用



図：伝統分野から新興分野へ加速する中国産業用ロボット活用シーン



出典：FNA分析、

- 今回は産業用ロボット関連主要部品、本体、システムインテグレーションへの参入戦略や、市場開拓戦略等を探索。

4.2.1.7 減速機

- 中国の産業用ロボットの減速機は、国産化が進んでいる。一方、日本企業の主要な戦略は、波動歯車減速機に重点を置き、ハイエンド市場に焦点を当て、減速機の部品技術と製品協力を注力している。

4.2.1.12 サーボシステム

- 産業用ロボットは産業の自動化で用いられ、モーターの応答速度、制御精度を厳しく要求される。現在、中国製のミドルエンドモーターが大規模・量産化を実現しており、日本企業のチャンスは主に高性能サーボモーターに存在している。

4.2.1.14 コントローラー

- PLCは産業機器、生産システム、主要インフラなどの中核となる制御機器であり、コントローラの中国国産化率が非常に低いのである。

図：産業用ロボットコントローラーにおける日本企業のマーケティング戦略

コントローラーにおけるマーケティング戦略

中堅・大手コントローラーメーカーに注力

小型PLCは主にローエンドOEM市場で使われるが、近年、中国ローカルブランドの技術レベルが徐々に向上し、高いコストパフォーマンスとカスタマイズ開発能力により、中国国産ブランドの市場の成長を後押しする。

小型PLC市場における外資系ブランドは徐々に減少傾向

ローカル化の強化

中堅・大手コントローラーメーカーはヨーロッパ系ブランドが中心で、中国ローカル企業はまだ初期段階にあり、日本企業にとってのビジネスチャンスは中国現地企業と連携化を図ること。

ローカル化企業の台頭がヨーロッパ系ブランドの独占を打破

部品・技術協力

現在、中国現地のコントローラーメーカーが大型PLCへの投入を拡大しており、日本企業が部品供給や技術面での協力等に提携チャンスがある。

旺盛な部品調達需要

略

略

部品・技術協力

現在、中国の高精度エンコーダーは輸入に大きく依存しており、中国国産メーカーが小型化へのブレークスルーが必要、エンコーダーは測位精度に大きな影響を与えている。

エンコーダ、ドライブはコア

2.3.1.1 南京埃斯頓自動化股份有限公司

- ・埃斯頓(ESTUN)は中国国内No.1の産業用ロボットブランドで、30年の歴史とコアコンポーネントが売上高に占める割合が大きい。

会社概要

- ・1999年に設立された埃ス頓は、金属成形機用CNCサーボシステム、ACサーボシステムへと事業を拡大し、独自開発した会社である。既存コア製品の優位性が2011年から顕著している。2015年には深セン証券市場の力を借り、ロボット産業チェーンを中心に拡大と川下のシステムインテグレーション能力を強化し、成長を遂げた。
- ・主な事業は産業用ロボットとコアコンポーネントで、ロボットが売上高の74%、26%を占める。産業用ロボットは、曲げ加工、アーク溶接、ハンドリングに用いられる。コアコンポーネントには、CNCシステム、サーボモーターが含まれ、CNCシステムは主に金属成形工作機械に、サーボモーターは主にロボット、3D、リチウム電池に用いられる。

出典：FNA分析、まとめ

<共用項目>

- 1) 会社概要
- 2) 産業用ロボット関連製品
- 3) 会社沿革
- 4) 2018-2022年営業利益成長率
- 5) 強みと今後の成長戦略
- 6) 日本企業のビジネスチャンス

2.3.1.2 南京埃斯頓自動化股份有限公司の経営状況分析

2016年～2019年には、Euclid(イタリア)、普萊克斯(Prex)、南京鋒遠、Trio Technology(イギリス)、M&A Cloos(ドイツ)を相次いで買収した。全産業チェーンと国際化の布石を急ピッチで進めた。

2015年

深セン証券取引所上場

2019年

ドイツの溶接ロボット大手「Cloos」を買収

4

2018-2022年営業利益成長率



2.3.1.3 南京埃斯頓自動化股份有限公司

- ・埃ス頓は産業用ロボット部品の自社生産の比率が高く、日本及びM&A投資チャンスに着目。

出典：FNA分析、まとめ

5

強みと今後の成長戦略

- ・産業用ロボット部品の自社生産率が80%以上と高く、また、技術的障壁が高い、国産化率が低い、競合が少い産業用ロボットを主力製品として販売しているため、埃ス頓の粗利率は同業界平均を大きく上回り、かつ変動が少ないのが特徴。
- ・国内外の優秀な人材の獲得に力を入れている。現在、ロボット・インテリジェント製造システム研究開発チーム、インテリジェント制御・コア制御部品研究開発チーム、ヨーロッパ研究開発センターの3大研究開発チームを擁している。先進的で安定した研究開発チームにより、同社は溶接や新エネルギーなど重点分野の技術ブレークスルーを進められている。
- ・国内の太陽光発電、リチウム電池などの新エネルギー産業の急成長に伴い、飛躍的な発展を遂げた。太陽光発電では、同社は晶澳、晶科、隆基などの太陽光発電大手と深く結びつき、太陽光発電モジュールの組立工程で90%の市場シェアを獲得している。リチウム電池分野では、埃ス頓が寧徳時代、億緯能などの主要サプライヤーの仲間入りを果たし、お客様の個別の要望やニーズに柔軟かつ速やかに対応できる。

出典：FNA分析、まとめ

6

日本企業のビジネスチャンス

01

スペアパーツの調達

02

技術開発

03

M&A動向

□ 埃ス頓の部品の自給率が高いため、日本企業にとってビジネスチャンスは同社が現在も外注している材料、センサーなどの部品や、サーボモーターの磁性材料、高精度エンコーダなど、エス頓で実現したもの、外注が必要で、日本企業が部品の供給にある。

□ 埃ス頓は技術開発に力を入れ、ロボット応用分野インテグレーションと新興分野の技術開発で協力を進めている。

□ 中国現地産業用ロボット市場の急成長に伴い、海外M&Aによるコア技術の獲得が積極的に行っており、今後コア技術を持つ日本の中小企業が埃ス頓に買収・投資される機会がある。

企業紹介イメージです！！！！

机器人

産業用ロボット市場総覧



FNA調査部

research@fna.cn

021-3353-8866, 0755-8250-4397

2023

中国産業用ロボット 市場調査総覧

ロボット産業チェーン関連製品別市場需要、国産化の最新進捗動向、
市場機会などを一望できる完全データブック

調査背景

業界の見通しは引き続き楽観的(安定成長)。2015年の国家統計開始以来、中国の産業用ロボットの年間生産台数は、2015年の32,996台から2021年には366,000台となり、長期にわたる安定成長を遂げている。また、コロナ後の経済回復の期待から、中国産業用ロボットとその産業チェーンの予測は安定成長を見込めると、業界は楽観的である。

ハイエンド市場は日本とヨーロッパが圧倒的な優位を誇り、中国ローカル系が主にミドル・ローエンド市場。中国の産業用ロボット市場の全体像は依然として主要外資ブランド企業4社(Fanuc, ABB, Yaskawa, KUKA)によって占められている。中国全体シェアの約5割を占める。中国ローカル系産業用ロボット企業の優位性は、主に金属・機械加工、食品・飲料、プラスチックおよび化学製品などの産業にある。

着実に進められる国産化。中国国産メーカーの市場シェアは継続して拡大傾向。主要な中国国産産業用ロボット企業は目覚ましい発展を遂げており、市場シェアは増加。例えば、Estunは80%の部品自社供給を実現している。同社は標準化とカスタマイズの要件を満たすための本体自社設計や、ソフトウェアアルゴリズムを研究開発および最適化してロボット本体の品質を向上させる能力を備えている。

本レポートは2013年から発行を開始し、今年が9冊目となる。今回、我々は中国産業用ロボット市場の最新発展状況及びその産業チェーン製品別の国産化の進捗状況に注目し、市場需要状況や市場参入チャンス、市場参入戦略及び開拓戦略などの角度から最新かつ生データを取り入れた、活用型専門レポートを作成する予定。

調査ポイント

- 中国の産業用ロボット市場規模と成長動向、主要な応用分野と需要促進要因を紐解く。
- 産業用ロボットのコア部品(精密減速機、コントローラー、サーボシステム)及び他の主要部品(ロボットビジョン及びセンサー、ケーブル・コネクタ)、ロボット本体、システムインテグレーションの国産化の進捗現状を詳細に把握。
- 産業用ロボットに関わる主要製品の市場チャンスや、日系企業との生産技術連携コース等の分析を総括。
- ターゲット市場セグメントへの参入戦略や、市場開拓戦略等を探索。

2023年6月発行予定 電子版 170ページ

【購読・お問合せ】

調査部 (中国語・日本語対応可)

TEL: 021-3353-8866 上海 TEL: 0755-8250-4397 深圳

Email: research@fna.cn



中国産業用ロボット市場調査総覧

発行日	2023年6月30日
調査・編集	工場網信息科技有限公司(上海)有限公司 調査部産業調査チーム
発行所	工場網信息科技有限公司
	〒200336 上海市長寧区延安西路2201号上海国際貿易中心268室
	TEL:86-21-3353-8866 FAX:86-21-3353-8981
	URL: http://www.factorynetasia.cn
中国連絡先	上海:王(日本語・中国語可) TEL:021-3353-8866
	深セン:黎(日本語・中国語可) TEL:0755-8250-4397
	Email: research@fna.cn